

教宣 せぶん

先輩の支援

「前回に引き続き、16日の栄総行動に参加することになりました。ついては、せっかくなので翌日、名古屋の労組回りをして冊子の販売に努めたいと思っているのですが、自宅に泊めてもらえないでしょうか?」「カンパ集めに来るんだから、宿泊代もったいねえわな。おお、ええよ」。先輩はぶしつけな申し出にもかかわらず、名古屋弁で快諾してくれました。

栄総行動当日、先輩はスケジュール通り、早朝から要請行動に参加していました。そして、昼から合流した私たちとともにデモ行進をおこない、14時からの支店要請ではマイクを握って訴える原告とともに、当たり前のように道行く人にビラを配っていました。

「パチンコに負けたと思えば安いもんやろ。カンパしてくれや」「あいつにカンパ頼んだら、『わかりました』と言ってたから、近日中に取りに行ってくる」。先輩は袂を分けたかつての分会の後輩達にも純カンパを募ってくれていました。

翌日、雨降りのなか、ダンボール箱につめた冊子を、台車にのせて労組回りを行なう私たちに対し、自動車を出して、運転手を買って出てくれました。そればかりか、回ったすべての労組事務所にも同行してくれ、「原告団OB」と自己紹介し、一緒に冊子販売をお願いしてくれました。「今日行けなかったところは、後日、冊子持って行ってくる」とも言ってくれました。先輩は、間違いなく、いまでも「原告」としてこのたたかいを、たたかっていると感じました。

「情けはひとのためならず」。家に泊まらせてもらって、呑みながら聞いた先輩の言葉ですが、心に染みしました。「当事者」にできることは、まだまだあると実感しました。